

学校における伝染病について

幼稚園における伝染病の蔓延を防ぐため、また感染した園児本人が十分に病気から回復するために、出席停止の措置をとることが定められています。(学校保健法12条)

園児が感染しやすい主な伝染病の種類とその出席停止の期間は以下の通りですので、日常の健康観察で下記の疑いのある場合は早めに医師にご相談ください。なお、出席停止は園長が指示するもので、欠席扱いにはなりませんので、伝染病にかかったときは速やかに幼稚園にご連絡ください。治って登園されます際には、幼稚園にあります「登園許可証」に医師に記入してもらい、幼稚園へ提出してください。

- ※ 出席停止はあくまでも基準です。医師が適切な予防処置をするか、又は医師が伝染の恐れがないと認めるときは出席してください。
- ※ 伝染性紅斑及び手足口病については、出席停止の必要はありませんが、症状が重く欠席した場合は証明書により出席停止扱いとします。

主な伝染病の種類とその出席停止期間の基準

病名 【病原体】	インフルエンザ 【インフルエンザウイルス】	伝播様式	飛沫感染	感染可能期	発病後4～5日以内
感染源	患者の鼻咽頭の分泌物	潜伏期	1～3日	主な症状	発熱、全身倦怠、筋肉痛、鼻カタル、咽頭痛、咳
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第2種) 解熱した後2日を経過するまで		予防措置	<ul style="list-style-type: none"> ・消化のよいものを食べ、睡眠を十分に取る ・手洗い、うがいの励行 ・人ごみをさける ・予防接種
病名 【病原体】	百日咳 【百日咳菌】	伝播様式	飛沫感染	感染可能期	感染後約3週
感染源	患者の鼻咽頭の分泌物	潜伏期	7～10日	主な症状	発作性咳嗽の長期反復、持続
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第2種) 特有の咳が消失するまで		予防措置	<ul style="list-style-type: none"> ・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行 ・予防接種
病名 【病原体】	麻疹(はしか) 【麻疹ウイルス】	伝播様式	飛沫感染	感染可能期	発疹出現の前後4～5日
感染源	患者の鼻咽頭の分泌物	潜伏期	9～10日	主な症状	上気道のカタル、発熱、粘膜疹コプリック斑
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第2種) 解熱した後3日を経過するまで		予防措置	<ul style="list-style-type: none"> ・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行 ・予防接種
病名 【病原体】	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 【ムンプスウイルス】	伝播様式	飛沫感染	感染可能期	明らかな症状を示す7日前からその後9日続く
感染源	患者の鼻咽頭の分泌物	潜伏期	14～24日	主な症状	発熱、耳下腺・舌下腺・顎下腺の腫脹及び圧痛
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第2種) 耳下腺の腫脹が消失するまで		予防措置	<ul style="list-style-type: none"> ・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行 ・予防接種
病名 【病原体】	風疹 【風疹ウイルス】	伝播様式	飛沫感染	感染可能期	発疹出現前7日～後14日
感染源	患者の鼻咽頭の分泌物	潜伏期	14～21日	主な症状	種々の発疹、軽熱、リンパ腺腫大
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第2種) 発疹が消失するまで		予防措置	<ul style="list-style-type: none"> ・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行 ・予防接種
病名 【病原体】	水痘 【水痘ウイルス】	伝播様式	飛沫感染 接触感染	感染可能期	水痘発現前2～後6日
感染源	患者の気道の分泌物、皮膚病巣	潜伏期	13～17日	主な症状	軽熱、被覆部に発疹、斑点丘疹状→水疱→顆粒状痂皮
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第2種) 全ての発疹が痂皮化するまで		予防措置	<ul style="list-style-type: none"> ・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行 ・予防接種
病名 【病原体】	咽頭結膜熱(アデノウイルス3、7型等)	伝播様式	接触感染(アデノウイルスの水、物品)	感染可能期	発病後1～2週まで
感染源	患者の糞便 鼻咽頭分泌物	潜伏期	3～9日	主な症状	発熱、全身症状、咽頭炎と結膜炎の合併症
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第2種) 主要症状が消失した後2日を経過するまで		予防措置	<ul style="list-style-type: none"> ・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行

病名 【病原体】	流行性角結膜炎 【アデノウイルス8型等】	伝播様式	接触感染	感染可能期	発病後約2週
感染源	患者の眼の分泌物	潜伏期	5～7日	主な症状	軽熱、頭痛、全身倦怠、 粘膜の炎症、眼瞼浮腫、 目やに
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第3種) 症状により医師が伝染の おそれがないと認めるまで		予防措置	・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行
病名 【病原体】	急性出血性結膜炎 【エンテロウイルス70型等】	伝播様式	接触感染	感染可能期	発病後5～7日
感染源	患者の眼の分泌物	潜伏期	1～2日	主な症状	流涙、結膜充血、眼瞼浮腫、 滲出液
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第3種) 症状により医師が伝染の おそれがないと認めるまで		予防措置	・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行
病名 【病原体】	伝染性紅斑(りんご病) 【ヒトパルボウイルスB-19型】	伝播様式	飛沫感染 接触感染	感染可能期	
感染源	患者の気道の分泌物	潜伏期	14～17日	主な症状	顔面紅斑 特に頬部の紅斑性発疹
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第3種) 主要症状(熱)が消退するまで		予防措置	・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行
病名 【病原体】	溶連菌感染症 【A群溶連菌】	伝播様式	飛沫感染 接触感染	感染可能期	潜伏期の後半から急性期の間
感染源	患者の鼻、咽頭または 化膿性患部の分泌物、 排泄物	潜伏期	2～5日	主な症状	発熱、咽頭痛、扁桃腺炎、 莓舌、頸頭部リンパ節炎、 皮膚発疹
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第3種) 主要症状が消退するまで		予防措置	・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行
病名 【病原体】	手足口病 【コクサッキーウイルス等】	伝播様式	飛沫感染 接触感染	感染可能期	
感染源	患者の水疱内容液、 気道の分泌物	潜伏期	3～7日	主な症状	感冒様症状、手・足・口に紅 斑→水疱
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第3種) 主要症状(熱)が消退するまで		予防措置	・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行
病名 【病原体】	伝染性膿痂疹(とびひ) 【ブドウ球菌等】	伝播様式	接触感染	感染可能期	水疱消失まで
感染源	患者の膿、痂皮	潜伏期	4～6日	主な症状	主として豆つぶ大の水疱出現
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第3種) 膿痂消失するまで		予防措置	・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行
病名 【病原体】	感染性胃腸炎 【ロタウイルス、 小型球菌ウイルス等】	伝播様式	経口感染	感染可能期	発病後約7日
感染源	患者の糞便	潜伏期	ロタウイルス2日以内 小型球菌ウイルス 1～3日	主な症状	下痢、嘔吐、発熱
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第3種) 主要症状が消退するまで		予防措置	・手洗いの励行
病名 【病原体】	感染性胃腸炎 【サルモネラ、カンピロバクター等】	伝播様式	経口感染	感染可能期	糞便中に細菌を続ける間
感染源	汚染された食品	潜伏期	サルモネラ 通常12時間 カンピロバクター 2～7日	主な症状	下痢、嘔吐、発熱
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第3種) 主要症状が消退するまで		予防措置	・生ものの摂取を控える
病名 【病原体】	ヘルパンギーナ 【コクサッキーAウイルス】	伝播様式	接触感染 飛沫感染	感染可能期	主に急性期 ただし、その後 も感染しうる
感染源	患者の鼻咽頭の 分泌物や糞便	潜伏期	3～5日	主な症状	突発的な発熱と口狭部の 水疱、夏～初秋に流行
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第3種) 主要症状が消退するまで		予防措置	・患者との接触を避ける ・手洗い、うがいの励行
病名 【病原体】	腸管出血性大腸菌 感染症 【病原性大腸菌】	伝播様式	経口感染	感染可能期	糞便中に細菌を続ける間
感染源	汚染された食品 患者の糞便	潜伏期	4～8日	主な症状	腹痛、嘔吐、水様性あるいは 泥土の下痢血便
学校保健法による処置（類別） 出席停止期間の目安		(第3種) 学校医・主治医の意見を聞く		予防措置	・手洗い、うがいの励行 ・生きものの摂取を控える